

[成果情報名]春作マルチ栽培におけるバレイショ「さんじゅう丸」の塊茎腐敗対策

[要約]春作マルチ栽培におけるバレイショ「さんじゅう丸」の収穫時の塊茎腐敗を回避する収穫時期は、出芽期から60日を目安とする。さらに、黒マルチを利用すると、透明マルチに比べ塊茎腐敗を減少できる。

[キーワード]ジャガイモ、バレイショ、さんじゅう丸、春作マルチ栽培、塊茎腐敗、収穫時期、被覆資材

[担当]農林技術開発センター・農産園芸研究部門・馬鈴薯研究室

[連絡先](直通)0957-36-0043

[区分]いも類

[分類]指導

[背景・ねらい]

そうか病に強く多収で外観が良いバレイショ「さんじゅう丸」は急速に普及が進んでおり、2012年春作では県内で30haの作付けが見込まれている。しかし、春作マルチ栽培の収穫時にストロンの基部に腐敗が発生することが普及上の課題となっている(写真1)。そのため、塊茎腐敗の要因と考えられる出芽期(半数以上の株が出芽した日)からの日数、マルチ内の地温について解析し、適正な収穫時期と被覆資材の検討を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 「さんじゅう丸」の春作マルチ栽培において、透明マルチを使用した場合、出芽期からの生育日数が60日を越えると、塊茎腐敗の発生が増加する(図1)。
2. 植付け後(2~3月)の気温が高いと、出芽期は早まり(2010年)、茎葉の黄化時期が早まる。そのため、露出したマルチへ直射日光が当たり、地温が高まり、塊茎腐敗が発生しやすい(図2)。
3. マルチ内の地温は、黒マルチを使用すると透明マルチに比べ1~3℃程度低くなり、塊茎腐敗の発生時期は遅くなり、腐敗率は少なくなる(図3)。

[成果の活用と留意点]

1. 本試験は県内秋作産温蔵種いもを使用したものである。
2. 出芽期から60日を目安に試し掘りをして収穫適期を判定することで、安定した収量の確保と腐敗抑制ができる。

[具体的データ]



写真1 塊茎腐敗の様子

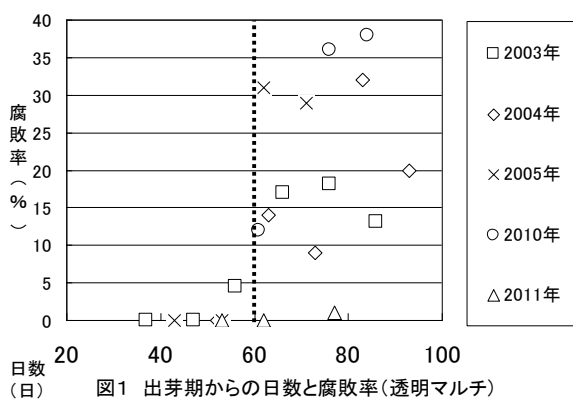


図1 出芽期からの日数と腐敗率(透明マルチ)

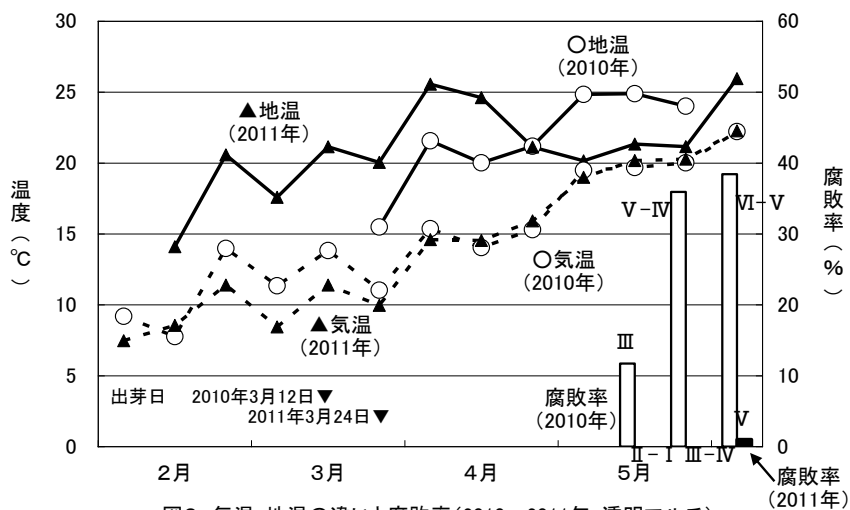


図2 気温・地温の違いと腐敗率(2010~2011年・透明マルチ)

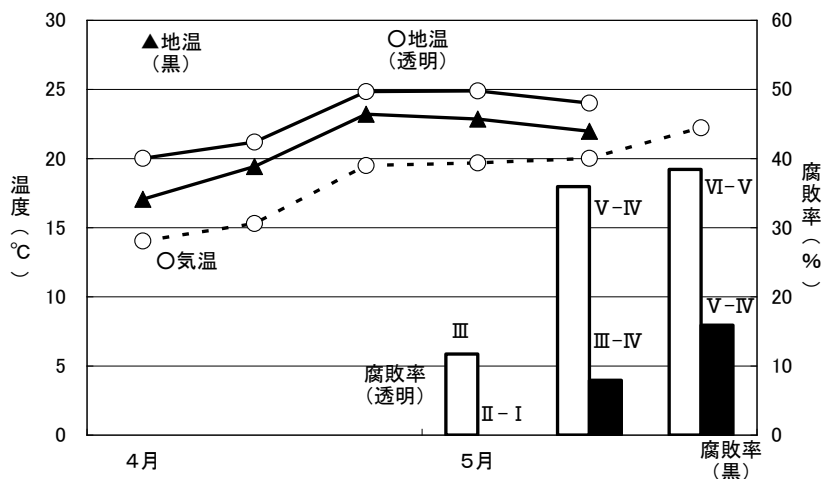


図3 マルチの違いと腐敗率(2010年・透明マルチ・黒マルチ)

注1) 図内の数値は茎葉の熟性

- I : 葉の黄変なし
- II : 下葉がわずかに黄変
- III : 葉の約1/3が黄変
- IV : 約2/3が黄変
- V : 株全体が黄変
- VI : 地上部が枯死(枯凋)

注2) 地温は地下10cmの深さで測定した

[その他]

研究課題名 : 長崎有色ばれいしょの加工品開発

温暖地・暖地向け病害・線虫抵抗性、高品質、多収のばれいしょ品種の育成

予算区分 : 県単 (戦略プロジェクト)、国庫 (指定試験事業)

研究期間 : 2001~2010 年度

研究担当者 : 坂本悠、向島信洋、森一幸